

別記様式

議 事 録

会議の名称	令和6年度岩倉市総合教育会議
開催日時	令和7年3月24日（月）午後1時から午後1時55分まで
開催場所	岩倉市役所 7階 会議室7
出席者	【構成員】 岩倉市長 久保田 桂朗 教育長 野木森 広 教育長職務代理者 江口 雅啓 教育委員 大村 あゆみ 教育委員 押谷 誠 教育委員 松本 恵 教育委員 三須 祐子 【事務局】 教育部長兼生涯学習課長 兼生涯学習センター長 兼総合体育文化センター長 石川 文子 学校教育課長 中野 高歳 学校教育課管理指導主事 加藤 佳子 学校教育課指導主事 柴田 健治 学校教育課主幹 酒井 寿（学校教育グループ長） 総務部長 中村 定秋 企画財政課長 佐野 剛 企画財政課統括主査 宇佐見 信仁（企画政策グループ長） 企画財政課主任 早川 聡子
会議の議題	（1）部活動の地域連携・地域移行について
議事録の作成方法	☒ 要点筆記 ☐ 全文記録 ☐ その他
記載内容の確認方法	☒ 会議の長の確認を得ている ☐ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
会議に提出された資料の名称	①会議次第 ②岩倉市総合教育会議構成員名簿 ③（改訂案）岩倉市における中学校部活動の地域連携・地域展開推進計画 ④「地域連携・地域展開推進計画」に付随する詳細案 ⑤いわくら陸上地域クラブ「ラントレ（仮称）」の創設に向けて（案） ⑥岩倉市部活動地域連携・地域移行だよりNo.5（案）
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開

傍聴者数	0 人
その他の事項	議事録作成者 企画財政課 早川 聡子

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
1	開会
2	市長あいさつ
3	協議事項 （１）部活動の地域連携・地域移行について 事務局から資料③～⑥について説明ののち、意見交換。 市 長： どんなことでも結構なので、ご発言をいただければと思います。 押谷委員： 教員の兼業という項目があるが、やりたくない人がやらざるを得ないような義務的な雰囲気にはならないか。 事 務 局： 今月に両中学校にヒアリングを行った。家庭の事情でやれないという教員もいたが、６～７割の先生は前向きである。現在の部活動は平日３日間、土日はどちらか一日で、昔に比べると減っている。経験のない教員もサポーターの協力を得ながらなんとかやれている。現状では誰か出さなければというほどではない。家庭の事情でできない人の負担を、サポーターが入ることで解消していける。 押谷委員： 最終的な目標は全面外部委託か。 事 務 局： 基盤が整えば全面外部委託にしていきたいが、整うのかという疑問の声がある。 今まで生徒の引率から大会運営、審判など、教員がやっていたことをすべて教員以外で行うのは難しいだろう。実際に教員が負担していることはもっとたくさんあるが、クローズアップされていない。すべてやってもらえるなら教員は安心して部活動から手を離せる。 教 育 長： 資料③改訂案の中に改革実行期間が書かれている。これが国の方向性なので、できるだけこれに沿ってやっていきたい。例えば、令和９年度から中学校体育連盟が全国大会から水泳の種目をなくすことを表明した途端に、水泳連盟が連盟の大会運営に教員の手を貸してほしいと話があった。つまり、今まで何もかも教員が担ってきたということ。 国からは、細かいところまですべて整えていくためにどれだけの労力が必要でどれだけ予算を付けなければならないか、はっきり示されていないし見えてもいない。今はまだ手探りである。 やりたい教員は兼職兼業で行える。 松本委員： 方策１と方策２は同時に進めているのか 事 務 局： そのとおり。行程表に従って順調に進んでいる。 教 育 長： 全ての部活動を地域移行しようとしたときに、指導者が足りるか見通しが立っていない。指導者というと荷が重いので、子どもと一緒に体を動かしてくださいとい

う形から入っていきたい。スポ少も相手が小学生だからできるが中学生になったら荷が重いという人が多い。

子どもにアンケートを取ると、何らかの種目で上位の大会を目指したい子は3割ほどしかいない。3～4割の子は仲間と一緒に楽しめればよいと考えている。上位を目指したい子は既にクラブチームに入っており、これからも増えていくと思われる。そうではなく、ただ楽しみたい子の居場所を作るためには、指導者として気構えなくても子どもたちを見守っていただいて一緒に活動していくことに理解を得ていくのが現実的だと思う。

江口委員： 中学に上がる子に何か部活動に入るのか尋ねたら、「保護者が学校説明会で、『これからの部活動は学校ではなく地域で行っていく』と聞いた」という。機会が減っていくのは寂しい。

本気で上手になりたい子は、送り迎えや経済的な援助が必要であり、子どもだけでは難しい。すべての子が平等な環境ではない。体を動かせる機会は残してほしいと切に思う。

市長： 先日、中学校の卒業式の送辞・答辞で二人とも部活動のことに触れていた。部活動を通してしかできない縦の繋がりがあり、子どもにとって部活動は学校生活の深い思い出になる。

松本委員： 指導者の選考基準はあるのか。どういう人が来るのか親は不安である。

事務局： サポーターについては、県の部活動指導者登録アプリで何人か登録があり、先生がチェックしている。指導員は信頼できる人がサッカー部と柔道部にいる。

押谷委員： 持続していく中でサポーターや指導員を評価する仕組みが必要である。学校では校長や教頭などがチェックするが、アウトソーシングするとどのように評価するのか。

事務局： アンケートではよい結果となっている。今後は指導者に研修を積んだりすることにも必要になるだろう。指導員は会計年度任用職員なので毎年更新するし、評価するシステムになっている。

押谷委員： プライバシーの問題はあるかもしれないが、活動場所にカメラをつけて監視すると証拠を残せる。

江口委員： 指導者の講習会はあるか。熱中症の対応など指導マニュアルはあるか。

教育長： 指導マニュアルを作りたいが難しい。国も研修動画を作成するなど徐々に環境は整いつつある。指導員は教員免許を持っているか、Jスポの公認資格を持っているか、そのくらいの資格を持っている人を想定している。

押谷委員： 各学校で開催している救急救命講習に参加してもらうのも良いだろう。

松本委員： スポ少は他市から参加している子がいるが、他の市町村から部活動に参加することは可能か。

教育長： 可能ではあるが、地域移行した場合の運営主体は市（岩倉市スポーツクラブ）に置くとしており、保険の関係で、スポクラブは市内の子しか受け入れない規約となっている。市外から来る子は自己責任でと言わざるを得ない。

市長： 民間の指導者はプロの技術を求めるケースがあるが、中学生にそれを求めても面白くない。指導者側も理解が必要である。地域に任せきりにするのではなく、学校も何か関わる必要はある。

教育長： 移行したからと言って任せきりでなく、学校が関わらなければならないだろうという意味で、地域移行から地域展開という言葉に変わりつつある。

三須委員： 「令和5年度まで存在した部活動の種目はできるだけ存続する」とあるが、子どもたちから違う部活動を増やしてほしいという意見が多々あった。例えば、高校受験に役立つ英語の検定が取れる部活などがあっても良い。

教育長： それは方策2の社会教育にあたる。

大村委員： 子どもたちが子ども主体で運営していける部活をやってみたいと言っていた。ネットを通じてオンラインで指導してくれる指導者がいるのではないかと。

押谷委員： オンライン指導は可能だが責任の所在が問題である。市と配信者との契約などが必要になる。

三須委員： 一部の先生は、クラウドファンディングを立ち上げて、やりたい部活をプレゼンして企業側に提案するのもいいかもしれないと話していた。

教育長： どちらにしてもお金が一番の問題。

押谷委員： 誰かが中心となって実際クラウドファンディングを立ち上げてみて、いい結果とらなかった場合に何がいけなかったのかなど、話を聞いてあげられるとよい。

教育長： 部活動指導員やサポーターを学校に入れて準備をしている段階では、国が一定の予算をつけているが、地域クラブに移行した後の指導者に対する謝礼等はまだ予算化されていない。今支払えている謝礼が払えなくなる可能性がある。指導者の中には謝礼を受け取ると責任が生じるから謝礼はなしでという人もいる。人によって違うため、個別具体的に進めていくしかない。

江口委員： 移行した場合、卒業後はどうなるのか。

教育長： しばらく平日の部活動は学校に残るが、その先はわからない。地域移行すると卒業アルバムに載せることはないだろう。学校と移行した地域活動をどう連携していくかは難しいところ。少なくとも誰がどこに所属しどんな活動をしているか把握していきたいし、活躍したら表彰したい。

押谷委員： どこかの部活に入らなければいけないというルールはまだあるのか？部活動に所属している人の割合は。

教育長： 岩倉では所属率は96%くらい。全国平均では70%台。学校が部活動を手放している自治体が増えてきている。今ここでご意見いただいているような難しさもあって、岩倉の進め方はゆっくりである。子どもたちのことを考えるとそう簡単には手放せない。徐々に整えてゆっくりやっていく。

松本委員： 部活動での活躍が内申書に影響しているが、地域移行後も同様に高校受験の推薦理由の一つとなるのか。

教育長： その制度は私学はやめないだろう。今でも学校の部活動にはない空手で全国大会へ行ったことなどを推薦理由に挙げており、それと同じ扱いである。先生は把握で

きないから自己申告してもらわなければならないだろう。

部活動の時間が減ってきているのでクラブチームや地域活動をする人が増えている。地域活動の立場から言えば、スポ協の人数が減ってきて寂しくなってきたところへ中学生の加盟が増えてきている。市民活動が高齢化や担い手不足で衰退している中に中学生が入ると活性化するという効果はある。まちづくりの一環にできると理想である。

市長： 手本や正解があるわけではないため試行錯誤を繰り返すしかないと思う。自治体によってやり方がまちまちでも構わない。将来的には広域連携といった形も良い。スポーツの環境は自治体によって特色がある。子どもたちが中学校生活を送るうえで、3年間楽しかったと思ってもらえるような部活動のあり方を行政として考えていきたい。

今日は貴重な意見をありがとうございました。

（２）その他

特になし

４ その他

特になし

市長： 以上をもちまして本日の会議を終了とします。本日は、お忙しいところありがとうございました。